北九州市立
男女共同参画センター
ムーブ

MOVING

ムービング

vol.97

CONTENTS

ムーブフェスタ2022 7月2日(土)～23日(土) 2
特集『未来をひらくあなたに』を読み解く 4
誌上講座[第1回] 包括的性教育の必要性～ジェンダーの視点から～ セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツとは 6
リレーエッセイ 7
講座報告 7
ムーブ実施事業年間スケジュール 8
Cutting-Edge 10

2022.6

ムーブフェスタ

男女共同参画へのムーブメント 2022 7月2日(土)▶7月23日(土)

オープニングイベント

東(あずま)ちづるさん講演会

浅く広くゆるくつながろう
～ Let's まぜこぜ ～

俳優であり、一般社団法人Get in touch代表の東ちづるさんがムーブへやってきます。

誰も排除しない、誰もが自分らしく生きられる「まぜこぜの社会」を目指し活動をされている東さんの姿から、今の自分を大切にする生き方を楽しみながら考えてみませんか。

入場無料

7月2日(土)
13:30～15:00

【会場】ムーブ 2階 ホール 【定員】250名

要事前申込　申込締切 6月16日(木)　※申込多数の場合は抽選

託児要予約　1人500円（6ヵ月～就学前のお子さん）

お申込み・お問合わせ

事業課　TEL：093-288-6262　FAX：093-583-5107
E-mail：event@move-kitakyu.jp

電話、FAX、ムーブホームページ、右記QRコードにて受付
［申込事項］郵便番号、住所、氏名、電話番号、託児を希望する場合はお子さんの名前と月齢

Profile

広島県出身。会社員生活を経て芸能界へ。ドラマから情報番組のコメンテーター、司会、講演、出版など幅広く活躍。プライベートでは骨髄バンクやドイツ平和村、障がい者アート等のボランティアを29年間続けている。2012年10月、アートや音楽、映像、舞台等を通じて、誰も排除しない、誰もが自分らしく生きられる"まぜこぜの社会"を目指す、一般社団法人「Get in touch」を設立し、代表として活動中。自身が企画・インタビュー・プロデュースの記録映画「私はワタシ～over the rainbow～」が順次上映。現在は、配信サイトVimeoにて「まぜこぜ一座『月夜のからくりハウス』」と共に配信中。『東京 2020 NIPPON フェスティバル』のひとつとして世界に配信される「MAZEKOZE アイランドツアー」の総合構成・演出・総指揮を担当、配信中。

市民企画事業

7月2日(土)～23日(土)

市民団体の企画で、講演会、コンサート、映画上映、体験講座などの催しを行います！
子どもから大人まで楽しめるイベントが盛りだくさんです。
詳細については特設サイトにてご確認ください。

講演会風景

特設サイトQRコード

フリーマーケット

7月2日(土)～23日(土) 【会場】ムーブ 1階 交流広場

雑貨・アクセサリー・衣類など、
さまざまな種類のお店が出店します。

イベントステージ

音楽とダンスで創る世界のステージ

～バリ舞踊・フラダンス・フラメンコの"響演"～

長く続くコロナ禍で海外旅行もままならない昨今、九州の玄関口である北九州から世界の文化・芸術とつながる華やかなステージを発信します！インドネシアのバリ舞踊、ハワイのフラダンス、スペインのフラメンコの"響演"をお楽しみください。

川﨑 麻愛さん

LA MOECOさん

徳永 康次郎さん

容昌さん

7月23日(土)
13:00～15:30

入場無料

【会場】ムーブ 2階 ホール 【定員】250名

◆バリ舞踊　13:05～13:35
川﨑(かわさき) 麻愛(まあい)さん、堺(さかい) 智濃(ちの)さん、船津(ふなつ) 純子(じゅんこ)さん

◆フラダンス　13:40～14:10
フラダンススタジオEki(エキ)のみなさん、ヒワコーさん、トーラス・ワンさん

◆フラメンコ　14:25～15:25
LA MOECO(モエコ)さん、徳永(とくなが) 康次郎(こうじろう)さん、容昌(ようすけ)さん、中原(なかはら) 潤(じゅん)さん、古迫(ふるさこ) うららさん

フラダンススタジオEkiのみなさん

トーラス・ワンさん

ヒワコーさん

要事前申込

申込締切 6月24日(金)
※申込多数の場合は抽選

託児要予約
1人500円(6ヵ月～就学前のお子さん)

お申込み・お問合わせ

事業課　TEL：093-288-6262　FAX：093-583-5107
E-mail：event@move-kitakyu.jp

電話、FAX、ムーブホームページ、右記QRコードにて受付
［申込事項］郵便番号、住所、氏名、電話番号、託児を希望する場合はお子さんの名前と月齢

サマーカーニバル

入場無料　ダンスや音楽の演奏、手品などでステージを盛り上げます。お見逃しなく！　事前申込不要

7月16日(土) 10:30～16:30 【会場】ムーブ 2階 ホール

行列のできる!? 法律相談Q&A

参加無料

離婚や暴力、詐欺などさまざまなトラブルの対応を弁護士と警察官がクイズ形式でわかりやすく解説します。

7月16日(土) 13:00～13:45
【会場】ムーブ 2階 ホール
（ムーブフェスタ サマーカーニバル内）
【定員】100名【講師】法テラスの弁護士、小倉北警察署

マガジンリサイクル

図書室の蔵書のうち、保存期限を過ぎた雑誌などを無料配布いたします。(お一人様10冊まで)
※人の密集を避けるため、蔵書は少しずつ出していきます。

7月2日(土)～なくなり次第終了
火～日曜日9:30～19:00(日曜日17:00まで)
【会場】ムーブ 1階 図書・情報室入口
【お問合わせ】情報課 TEL：093-583-5082

パネル展示
「大切にしよう、自分のこと。」

7月2日(土)～23日(土)
【会場】ムーブ 1階 正面玄関横スペース

テーマ　デートDVについて考えましょう
あなたと同じ人はどこにもいません。
あなたはとても大切な存在です。

特 集

『未来をひらくあなたに』を読み解く

東京大学大学院 情報学環 教授
田中（たなか） 東子（とうこ）さん

Profile
早稲田大学大学院政治学研究科単位取得退学。博士（政治学）。十文字学園女子大学准教授、大妻女子大学文学部教授を経て、2022年より現職。専門分野はメディア文化論、ジェンダー研究、カルチュラル・スタディーズ。著書に『メディア文化とジェンダーの政治学ー第三波フェミニズムの視点から』（世界思想社）など。

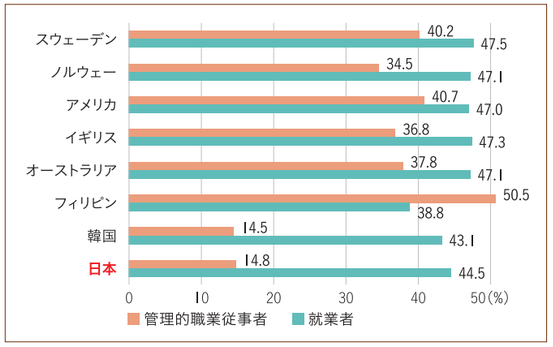
2022年3月にムーブが発行した『未来をひらくあなたに』は、高校生や大学生を対象に、ジェンダー平等や性の多様性について多角的な視点から語りかける啓発ブックレットだ。この冊子では、若い人たちが日々の暮らしのなかで抱くモヤモヤした気持ちや違和感について、ジェンダー研究による最新の知見を踏まえ、分かりやすく解説している。ジェンダーや性の問題について、何をどう若者に知ってもらう必要があるのか、この冊子の特徴を明らかにしながら説明していく。

1. 日本はジェンダー平等な社会なのか？

冊子の中でも紹介されているように、スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が2006年から毎年公表している「ジェンダーギャップ指数」というデータがある。このデータでは、世界150か国以上の各国の男女格差を数値化し、各国の男女間の格差を「政治」「経済」「教育」「保健」の4つの分野で比較している。

2021年の結果を見てみると、「政治」と「経済」の分野において日本社会での男女間の格差は大きく、「教育」と「健康」を入れた比較においても、156か国中120位と極めて男女不平等な社会であることが明らかにされている。冊子の10ページで引用されている「就業者および管理的職業従事者に占める女性の割合」のグラフを見ても、女性管理職の割合が30％を越えている欧米に比べて、日本では14.8%と非常に低い水準のままである。

●就業者および管理的職業従事者に占める女性の割合



総務省「労働力調査（基本集計）」（令和元年）、その他の国はILO"ILOSTAT"（2018年）より作成

冊子ではそのほかにも、「各国の衆議院女性議員の比率（2021年）」についてグラフが示されている。ともに女性が首相の国として広く知られているニュージーランドとフィンランドでは、女性議員の比率がそれぞれ48.3%と46%になっている。これらの国々と比べると、日本の女性衆議院議員の比率は9.9%に過ぎず、しかもこの水準は女性の参政権が認められるようになった第二次世界大戦後、ほぼ変わらないままである。

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」であるSDGsの目標5で掲げられた「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」という社会へと変わっていくためには、これまで以上に多くの努力と試みに取り組む必要があると分かる。では、日本社会において、ジェンダー平等への達成を妨げているのはどのような要因なのだろうか？

2. 何がジェンダー不平等を生み出しているのか？

日本社会のジェンダー不平等の原因としては、「アンコンシャス・バイアス」と呼ばれる個人の意識の問題と、構造や制度やシステムなどの社会全体の問題の両側面から考えてみることができるだろう。冊子でも冒頭に紹介されているように、「アンコンシャス・バイアス」と呼ばれるものが、私たちのジェンダー意識を形作っていることが、徐々に指摘されるようになってきた。

「アンコンシャス・バイアス」というのは、日本語では「無意識の偏見（思い込み）」と訳される言葉である。これは、明確に差別をする意図がないとしても性別に紐づけされた偏見や思い込みによる発言を通じて、日常のさまざまな場面で相手を傷つけたり、可能性をそいでしまったりする場合があることを説明してくれる。

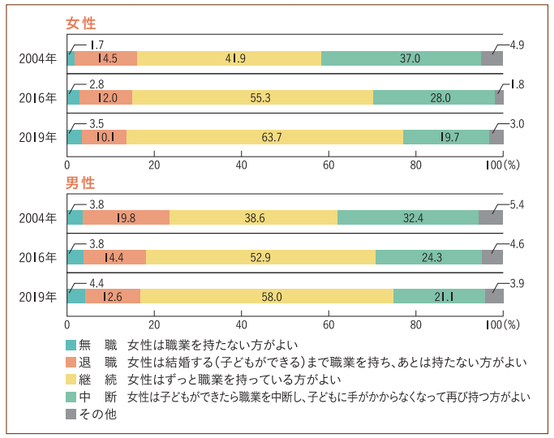
例えば、「女性って話が長いし、感情的だよね」「男性は、子どもの面倒見るのが下手だな」というような、明らかに相手を侮蔑するような言葉だけでなく、「女性というのはきれい好きで、面倒見がいいね」というような一見誉めているようにもみえる言葉であっても、大きなカテゴリーに基づいて判断していることから、偏見を助長する行為になってしまうことがあるのだ。

この「アンコンシャス・バイアス」は、「育つ環境や所属する集団のなかで知らず知らずのうちに脳にきざみこまれ、既成概念、固定観念となっていきます。バイアスの対象は、男女、人種、貧富などと様々ですが、自覚できないために自制することも難しい」（「無意識のバイアスーUnconscious Biasーを知っていますか?」男女共同参画学協会連絡会著（2019））とされ、一人ひとりの人間が、生まれながらに持っている意識ではなく、むしろ社会生活の中で身につけていく性別に基づく偏見やステレオタイプなのである。

このような偏見やステレオタイプが蓄積された結果、私たちの社会構造は「固定的性別役割分担意識」に基づいてさまざまな制度や仕組みがつくられるようになっている。冊子の5ページにあるように、「男性は仕事、女性は家庭」「主要な業務は男性、女性は補助的な業務」といった性別役割分担意識が強固にある組織では、家庭生活に貢献したいと考えている男性や、会社の中で主要な仕事を担いたいと考えている女性の働き方を阻害することにもなりかねない。このような分担意識によって、男性も女性も、得意なことややりたいこと、能力を発揮すべき機会を平等に得ることができなくなり、場合によっては活躍すべき場面でその能力を発揮できなくなってしまうようなことになるのだ。

とはいえ、「仕事」に対する男女間の意識は常に変化し続けている。8ページに掲載されている「女性が職業を持つことに対する意識の変化」での推移を見ると、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」と考える女性の割合は、2004年には37%だったのに対して、2019年には19.7%にまで減少している。また、「女性はずっと職業を持っている方がよい」と考える男性は、2004年には38.6%だったのに対して、2019年には58%にまで増加しているのである。

●女性が職業を持つことに対する意識の変化

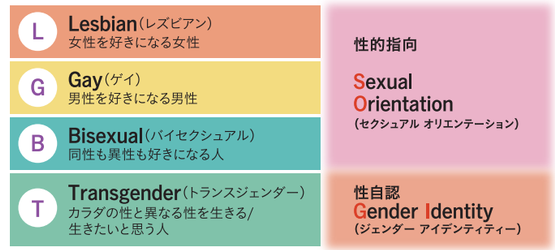


内閣府 令和2年度版『男女共同参画白書』より作成

性別に関する私たちの偏見や思い込みは、社会制度やシステムに蓄積され、ジェンダー平等の達成を阻害する要因になっている。しかし、このような調査結果は、女性もまた経済力を身につけ、自分の能力を発揮することを、女性だけでなく男性もまた望むようになりつつあることを示している。こうしたことから、この冊子のような啓発教育を通じて、私たちの意識を変化させていくことは、ジェンダー不平等な社会を脱却するためには重要なことであると考えられる。

3. アンコンシャス・バイアスに気づけるか？

冊子では、「アンコンシャス・バイアス」や「固定的性別役割分担意識」を糸口に、「働く」「女性活躍」「ワーク・ライフ・バランス」など、主に労働の場での女性と男性の間の立場の平等性や、両性の活躍について説明した後で、後半では「性の多様性」についても言及している。15ページには、最近では新聞やテレビなど一般のメディアでよく取り上げられている「LGBTQ」（この言葉に代えて「LGBTQ+」という表現が使われることもある）についても詳しく説明されている。



性に関する考え方は、私たちの恋愛や性愛がどういう対象に向かうのかを示す「性的指向（Sexual Orientation）」と、自分の性をどのように認識し、どのような性のアイデンティティ（性同一性）を自分の感覚として持っているかを示す「性自認（Gender Identity）」の多様な組み合わせの中で決定されている。この二つの言葉の英語の頭文字をとった「SOGI（ソジ）」という言葉は、「性」のあり方がとても多様なものであり、これまで考えられてきたような「女性」と「男性」の二種類には還元できないということを示してもいる。

このように、冊子『未来をひらくあなたに』は、私たちの働き方、未来の活躍の可能性について、そして性の多様性についてなど、重要なテーマを素敵なイラストと分かりやすい説明で解きほぐしてくれる。こうした説明によって、若い人たちがジェンダーや性の問題を、自分自身の身に引き付けて考えることができるようになるのではないか。さらに本冊子は、高校生や大学生だけでなく、大人もまた学びなおすために活用できる、優れた教材なのである。

冊子発行案内 『未来をひらくあなたに』

ムーブでは、若者世代に向けて、ジェンダー問題を知ってもらうための冊子を発行しました。

ジェンダーに関する基本的な内容や日本の現状を、自分の課題として若者が楽しく学べるような構成になっています。

これからのあなたの未来について一緒に考えてみませんか？

ムーブのホームページから冊子データのダウンロードができます。

■発行 令和4年3月

【お問合わせ】情報課　TEL：093-583-5082

誌上講座［第1回］

テーマ

包括的性教育の必要性 ～ジェンダーの視点から～

産婦人科専門医・公衆衛生学修士・医学博士

重見（しげみ） 大介（だいすけ）さん

Profile

2010年日本医科大学卒業。2018年より遠隔健康医療相談「産婦人科オンライン」代表を務め、オンラインで女性が専門家へ気軽に相談できる仕組み作りに従事している。また、包括的性教育に関して、中高生への講演や、SNSやメディアを通じた情報発信をしている。

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツとは

日本は医療や公衆衛生の質が総合的に高く、女性の健康と深く関わる妊娠・出産においても世界に誇れる指標（周産期死亡率、新生児死亡率など）をいくつも有しています。一方で、産婦人科医の目線から「女性の健康や性の安全」という観点で考えてみると、他国に比べ大きな課題が存在していることも事実です。例えば、確実性の高い避妊法（経口避妊薬や子宮内避妊具など）が普及していない、緊急避妊へのアクセスに不便さが多く費用も高い、多くの先進国で60%以上の接種率であるヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの接種率が非常に低い（1～2%以下）※1、人工妊娠中絶は年間約14万件程度実施されており未成年だけでも一日約28件あること※2、思春期のうちからかかりつけの産婦人科医を持つ人が少なく「若いうちから女性としての健康を自身で管理する」という意識が社会全体として薄い傾向にあることなどが挙げられるでしょう。また、こうした課題には「権利」という概念も大いに関わっています。これらの社会課題に対して個別の対策を講じることはもちろん大切であり、それは今この瞬間にも困っている女性の不安や苦痛を最小限にするために必要不可欠ですが、これらに共通する潜在的かつ非常に重要な概念として、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ」というものがあります。

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツは、英語表記でSexual and Reproductive Health and Rights（SRHR）であり、日本語では「性と生殖に関する健康と権利」と訳されるものです。国際連合における人権活動の中心となる機関である国連人権高等弁務官事務所（Office of the High Commissioner for Human Rights: OHCHR）の説明を参考にすれば、SRHRは「達成できうる最高水準の身体的及び精神的な健康を享受する権利であり、すべての人に不可欠な要素」と言い換えることができるでしょう※3。

もう少し分解して平易な言葉で表現すれば、表のようになります。それぞれの要素は当然ながら、部分的に重なっています。

それでは、SRHRは日本において各個人へ十分に提供されているのでしょうか？冒頭で述べたような社会課題が存在し、海外に比べて明らかに整備が遅れているものがあることを踏まえれば、未だにSRHRが十分に認知され、提供されているとは言い難いと考えられます。

そうなると、このSRHRをより社会の中で充実・向上させていくためには何が必要なのでしょうか。そこで重要となるのが、「包括的性教育」です。日本で多くの人が思っている「性教育」は、「性に関する知識やスキル」として、妊娠・出産の仕組みや避妊、性感染症予防を教える（学ぶ）ことが連想されるかもしれませんが、「包括的性教育」はこれとは大きく異なる概念です。「包括的性教育」とは、国際的に広く認知・推進されている「性に関する知識やスキルだけでなく、人権やジェンダー観、多様性、幸福を学ぶ」ための包括的な概念と言えるものなのです。

次回は、この「包括的性教育」について詳しく触れていくことにしましょう。

表 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツの4要素

要素	概要
セクシュアル・ヘルス	自分の「性」に関して健康な状態。性感染症予防や性暴力・性差別の回避だけでなく、性の喜びを得られ、その人のジェンダーのあり方が尊重されていることも含まれる。
リプロダクティブ・ヘルス	「生殖」に関して健康な状態。自分の妊娠・出産の価値観や希望が尊重され、心身ともに満たされていること。
セクシュアル・ライツ	自分の「性」に関する権利。自分の愛情を向ける人・プライバシー・性的な快楽・性のあり方を自分で決められること。
リプロダクティブ・ライツ	自分の「生殖」に関する権利。子どもを産むか産まないか、どのタイミングで何人子どもを持ちたいかなどを自分で決められること。そのための十分な情報を得られることも含まれる。

<参考文献> ※1. Simms KT, et al. “Impact of HPV vaccine hesitancy on cervical cancer in Japan: a modelling study.” Lancet Public Health 2020:5(4):e223-e234.
※2. 厚生労働省「令和2年度衛生行政報告例の概況」
※3. Office of the High Commissioner for Human Rights.“Sexual and reproductive health rights”

第3回

北九州地域のさまざまな分野でご活躍中の皆さまをエッセイでご紹介します。

リレーエッセイ ムーブと私

みんな違ってみんないい

株式会社ゼンリン 総務人事部 部長

土谷（つちや） 和子（かずこ）さん

Profile

北九州市出身。1988年ゼンリン入社。営業、制作部門の管理業務、人事・総務企画業務等を経て2022年4月より現職。2017年北九州市立大学マネジメント研究科にてMBA取得。

「自分のキャリアは自分で創る」

人生は、自ら舵（かじ）を取って、創っていくものだということの気づきを得ることができたのが、ムーブが主催する2012年に受講した「働き女子の夢をかなえるキャリアアップ講座」である。

現在の講座名は「働く女性のためのステップアップセミナー」だが、主体的にキャリアや仕事を考え、キャリア形成の基盤を強化するプログラムであることには変わりがなく、2011年から始まっている息の長い人気の講座で、修了生は延べ300名を超える。

20代で結婚、出産し、30代では仕事を続けながら子育てをしつつ、40代を迎えた時、私が働く意義は？なんのために働いているのか？と自問自答していた。いつも時間との闘いの中で、保育園や学童のお迎え時間を気にしつつ、時間を忘れて仕事に没頭することにも限りがあり、これから私はどうなるのか、どうしたいのか？と悶々（もんもん）としていた頃に、この講座のチラシを手にし、「何かが変わるかもしれない」そんな思いで参加した。そして、この講座を皮きりに、たくさんの学びをいただき、多くの仲間と出会うことができた。この出会いが私の大きな原動力となり、そこで出会った方々が私の大切な宝物。

出会う多くの仲間は、働く職場も立場も異なるが、皆、それぞれが自分のキャリアについて悩んでいる。セミナーを通じて悩みを共有し、多様性を学ぶことで「自分らしく、違っていいんだ」と背中を押してもらった。誰もが自分の持つ素晴らしい力に気がついていない。これからは、自分の持つ力に気づき、その力を活力に、元気に、楽しく、前向きに過ごせるように私が背中を押す人になりたい。そしてキャリアに悩んでいる方の伴走者として少しでもお役に立てたらと思っている。ただ今、キャリアコンサルタントとしてキャリア相談受付中です。

講座報告

男女共同参画啓発講座

性別役割分業からの脱却や性別にかかわらず一人一人の個性・多様性を尊重することは、男女共同参画社会を形成する上で、今なお達成すべき大きな課題となっています。本講座は市民の方に広く「男女共同参画」を啓発し、その理解の促進を図ることを目的に開催しています。

出前講座

自分らしさを磨く 心も伝わる声と話し方 ～より豊かなコミュニケーションのために～

令和4年1月22日（土） 八幡東生涯学習センター 尾倉分館（旧レディスやはた）

【講師】ボイスエアー 代表 **藤重（ふじしげ） 知子（ともこ）さん**

令和3年3月に閉館したレディスやはたで開催し好評をいただいていた講座である「話し方講座」をムーブ主催の出前講座として八幡東生涯学習センター尾倉分館にて開催しました。マスク時代の感情の伝え方として、通常の1.5～2倍の笑顔の練習から始まり、発声練習（マスク着用、小声）や声の強弱・緩急・間などの表現テクニックの実践など参加型の講座となりました。最後に、コミュニケーションのヒント「ほめる」について考えました。

受講生からは「3時間があっという間に経ちました」「とても楽しい学びの場でした」などの感想をいただきました。

出前講座

中島俊介先生の心理学講座 ～人権文化は多様性と対話の理解から～

令和4年2月27日（日） 門司生涯学習センター 大里分館（旧レディスもじ）

【講師】西南女学院大学 教授・北九州市立大学 名誉教授 **中島（なかしま） 俊介（しゅんすけ）さん**

令和3年3月に閉館したレディスもじで開催し好評をいただいていた「中島俊介先生の心理学講座」をムーブ主催の出前講座として門司生涯学習センター大里分館にて開催しました。今回は「人権文化は多様性と対話の理解から」というテーマに沿って、人権文化の根付いた社会にするために、多様性の受け入れ方や感情のコントロールなどについて心理学の基本的考え方を踏まえながらお話いただきました。

参加者の方からは「先生の講座はわかりやすく、ユーモアを交えてあり、リラックスした気持ちで聞けました」「元気になれました」「また先生の講座を開催してほしいです」などの感想を多くいただきました。